



海の清掃車奮闘中

心
あ
つ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

NMCAA
NO3

7月の豪雨による被害は大きかったですが、流れる流木は最終的に海に行きつきます。伊勢湾などでは、豪雨の最中より1週間から9日間で、昨年度の1年分に相当する量の漂流物が処理されています。これらは航行する船舶に影響を与えるだけでなく、状況によっては生け簀や筏などの養殖産業、さらには海水浴場などの観光業にも波及するため、早い段階で除去する必要があります。国土交通省が処理にあたっているそうです。

その作業を担う専用船といえるのが「海洋環境整備船」です。「海面清掃船」や単に「清掃船」とも呼ばれ、その名の通り海面に漂う様々な漂流物を回収し、海洋環境の維持向上に従事する、いわば海の「ゴミ収集車」というべき存在です。国土交通省が保有する海洋環境整備船は、2020年4月現在で12隻あり、東京湾や伊勢湾、瀬戸内海、有明海および八代海などに

配備されています。また海洋環境整備船を含む清掃船は国のほか、民間所有、港湾を管理する地方自治体の保有など様々な形態があり、国や自治体から運航を民間（社団法人含む）に委託する形も採られています。令和2年7月豪雨に際しても、九州の八代海や有明海、中部地方の伊勢湾などで奮闘しています。遠方の港に配置されている海洋環境整備船も、応援のため当該港湾に派遣されており、船舶の安全と、漁業や観光業の被害拡大防止のために活動を続けています。（乗り物ニュースより）

海ごみ対策に取り組む神戸商業が考えたこと

兵庫県にある県立神戸商業高校・理科学研究部は、海洋ごみ問題への取り組みで多くの表彰をされています。その成果のひとつが、外国製のペットボトルの漂流ルートの割り出しです。学校の近くにある西舞子海岸などに漂着する海洋ごみを回収し、外国製のペットボトルの表記データから漂流ルートを割り出しました。その結果、海外からの海洋ごみは、黒潮によって運ばれて豊後水道と紀伊水道から瀬戸内海に流入、中国東北部と韓国製の海洋ごみは、最初に南へ運ばれ黒潮に乗り北上していることが判明しました。この調査は、環境大臣賞や文部科学大臣賞などを受賞しています。顧問の石川正樹先生は、今意識が高まっているのもっと高めてもらって、捨てないということも一つだが、拾うこと。気になったら拾ってくれる人が増えれば当然ゴミは減ると思う」と語っている。フーシャルイノベーショナルニュースより）きれいな海は多くの人の気持ちだと思えました。形にしたいと思えます。